

ナラティブ教材を用いた
精神看護学授業での
統合失調症のイメージの変化の
テキストマイニング分析

小平朋江(聖隷クリストファー大学)

いとうたけひこ(和光大学)

第31回日本看護科学学会学術集会

高知市文化プラザかるぽーと

第15会場 第2展示室(7F) P1-6-289

2011年12月3日 11時00分から11時50分

【問題】

Kleinman (1988) は「学生の経験は、患者の世界から生まれた伝記やフィクションを読むことによって豊かなものにする事ができる」と述べた

- 精神看護学教員は、授業を通じて Kleinman の述べたことを体感しているのではないか。
- 小平・いとう(2010ab)は病いの体験を綴った闘病記などをナラティブ教材として定義した。効果的な教材の探索と選択を可能にするためには、ナラティブ教材そのものの構造の分析とともに教育による学生の効果の分析が必要である。
- 服部(2010)はテキストマイニングについて暗黙知を形式知に変換するプロセスで重要な役割を果たすことを提案している。

【用語の定義】①

- **ナラティブ教材**: 患者の病いの体験を患者や家族などが自ら自分のことばで語った物語りが表現された作品であり、学習者にとってその体験の理解を促進したり、助けになる目的で看護教育などに利用されうる形に教材化されたもの(小平・伊藤, 2009c)。
- **ナラティブ教材の分類**(小平・伊藤, 2009c): (1)手記・闘病記、(2)マンガ・コミックエッセイ、(3)定期刊行物、(4)テレビ番組、(5)ビデオ・DVD、(6)ドキュメンタリー映画、(7)ブログ・ウェブサイト

【用語の定義】②

- **テキストマイニング**: 文字(テキスト)という質的データを、多変量解釈なども用いた量的方法で分析する手法であり、質的なテキストデータに基づいた上で、統計的手法を用いる量的な分析である(金, 2009)。
- テキストマイニングは質的なテキストデータに基づいた上で、統計的手法を用いる量的な分析であり、質的研究と量的研究の2つの側面を合わせ持つ(小平・伊藤・松上・佐々木, 2007; いとう, 2011)。

【目的】

- ナラティブ教材を用いた授業の進行による統合失調症に対する学生のイメージの変化を明らかにする。

【方法】

- **研究協力者**:対象者は看護学部2年生「2010年度精神看護援助論 I」秋セメスター15コマ 履修登録者152名
- **手続き**:上記の15コマ中、単元「統合失調症の看護」(2コマ)で、「あなたの統合失調症のイメージはどのようなものですか？言葉で以下に自由に書いて下さい。」を自由記述回答で答えてもらった。
単元1コマ目の講義開始時(10年10月27日協力者120名:第1回目)
単元2コマ目の講義終了時(10年11月4日協力者94名:第2回目)
さらに全ての講義終了間近の時期(11年1月13日協力者86名:第3回目)で、実際に古川(2001)の闘病記を朗読したのち、同じ質問に対する有効回答75人分をふくめ合計289回答を分析対象とした。なおこの回は、上の質問の他以下の2問も聞いた。(1)「本日、朗読した古川奈都子さんの語り(闘病記)を聞いての感想を自由に書いて下さい。」(2)「このような闘病記(ナラティブ教材)についてもっと知りたいことがあったら自由に書いて下さい。」
- **分析手続き**:回答文をテキスト化し、テキストマイニングソフトであるText Mining Studio((株)数理システム)により分析した。
- **倫理的配慮**:聖隷クリストファー大学倫理委員会の審査を経て実施した(認証番号10039)。

【結果】①テキスト基本統計量

項目	値
総行数(延べ人数)	289
感想文あたり平均文字数	29.2
総文数	784
1文あたりの平均文字数	10.8
延べ単語数	3399
単語種別数	995

- 第3回から欠損値(未記入)11人分を除いた延べ289人分のイメージの回答を分析対象とした。
- タイプ・トークン比は29.3%であった。

【結果】②単語頻度分析(名詞)

単語	品詞	頻度	単語	品詞	頻度
人	名詞	148	他人	名詞	15
イメージ	名詞	94	理解	名詞	15
自分	名詞	73	苦手	名詞	14
幻覚	名詞	66	心	名詞	14
幻聴	名詞	66	世界	名詞	13
病気	名詞	50	話	名詞	13
統合失調症	名詞	38	生活	名詞	12
周り	名詞	35	薬	名詞	12
症状	名詞	33	患者	名詞	11
妄想	名詞	24	健康	名詞	11
状態	名詞	22	周困	名詞	11
行動	名詞	21	日常生活	名詞	11
普通	名詞	21	幻視	名詞	10
一人	名詞	20	精神病	名詞	10
感じ	名詞	20	声	名詞	10
部分	名詞	17	他	名詞	10
患者さん	名詞	16	理由	名詞	10

名詞の出現は、「人」「イメージ」「自分」「幻覚」「幻聴」「病気」「統合失調症」「周り」「症状」「妄想」が上位単語であった。

【結果】③単語頻度分析(形容詞)

単語	品詞	頻度	単語	品詞	頻度
怖い	形容詞	51	身近	名詞	7
普通	名詞	21	不安	名詞	7
難しい	形容詞	19	良い	形容詞	7
辛い	形容詞	16	上手い	形容詞	6
多い	形容詞	15	変	名詞	6
苦手	名詞	14	長い	形容詞	5
暗い	形容詞	13	様々	名詞	5
強い	形容詞	13	悪い	形容詞	4
健康	名詞	11	完全	名詞	4
うまい	形容詞	9	少い	形容詞	4
苦しい	形容詞	9	静か	名詞	4
孤独	名詞	9	大切	名詞	4
激しい	形容詞	8	敏感	名詞	4
急	名詞	7	問題	名詞	4

- 形容動詞と形容詞の出現は、「怖い」「普通」「難しい」「辛い」「多い」「苦手」「暗い」「強い」「健康」「うまい」が上位単語であった。

【結果】④特徴語分析

第1回目(単元開始前)

第2回目(単元終了後)

第3回目(2ヶ月後)

単語	品詞	属性	全体	補完類似度
幻聴	名詞	41	66	25.62
人	名詞	75	148	23.23
恐い	形容詞	32	51	20.44
感じ	名詞	15	20	12.97
聞こえる	動詞	14	18	12.68
周り	名詞	21	35	12.09
見える	動詞	14	19	11.82
幻覚	名詞	33	66	9.46
イメージ	名詞	45	94	9.43
見える+ない	動詞	10	13	8.93

単語	品詞	属性	全体	補完類似度
患者さん	名詞	14	16	19.17
日常生活	名詞	9	11	11.84
暴れる	動詞	7	9	8.90
急性期	名詞	6	6	8.80
慢性期	名詞	6	6	8.80
理由	名詞	7	10	8.22
閉じこもる	動詞	6	7	8.12
心	名詞	8	14	7.64
苦しむ	動詞	10	21	7.17
看護師	名詞	5	6	6.65

単語	品詞	属性	全体	補完類似度
病気	名詞	22	50	21.42
人	名詞	44	148	14.85
症状	名詞	14	33	12.94
妄想	名詞	11	24	11.29
周り	名詞	13	35	9.48
一人	名詞	9	20	9.03
孤独	名詞	6	9	8.54
理解+できない	名詞	6	9	8.54
強い	形容詞	7	13	8.51
身近	名詞	5	7	7.41

古川奈都子(統合失調症当事者)(2001)『心を病むってどういうこと? : 精神病の体験者より』ぶどう社

< 講義で朗読した部分の抜粋 >



- p13: 精神病には、完全に治った状態ではなく、発病前のようにもどるのではなく、発病前とは全く違う別の状態で、なんとか社会生活が営める状態になることを『寛解』という言葉で言う。…『寛解』したとは、自分自身が大きく成長した、飛躍したということです。
- p36: 私は、日頃、自分が暴れない対策として、上に飛んでジャンプを、1分間に20回くらいくり返した。…日の半分はジャンプで過ごした。…何かの刺激をきっかけに、病棟の椅子を人に当たらないように、わずかばかりの残った理性で計算をして、投げ飛ばした。そしたら主治医が見ていて、「保護室」と、看護師に言った。…私は机につかまり、「やめてー」と叫んだ。…私は、最後の最後まで床につかまったが、引きずられていってしまった。精神病院に初めて入院したとき以上に、「私はきちがいのらく印をつけられた」と、激しく思った。…

古川奈都子さんの語り(闘病記)への学生の感想

(C53)

「いやだ」と叫ぶこと、ピョンピョンと日の半分だって跳ぶこと物をなげること、古川さんが過去に行った場合を第三者(特に医師や看護師のような)立場から見るとまさに精神病の症状であり、自分が居合わせていたら古川さんの心の内などは想像できないと思う。精神症状がでて自分の記憶があることに驚いたしさらに、その行動に至る理由、その人なりの考え方まであることにとっても衝撃を受けた。私は「精神病」というものに対して、ひどい偏見を持っていたことにも気づかされた。患者には考える力があり、心があり理由がある、ということをしっかり頭の中に記憶したいと思う。

古川奈都子さんの語り(闘病記)への学生の感想

(C55)

病気が治る、治らないの2極ではなくて、あえて新しい立場の「寛解」という次元にいるという古川さんの文章は衝撃だった。人間の性質はもともとそんなに変わるものではないけれど、病気を発病することによってもともとの性質が少し変わるのかと思う。病気である自分の姿を見られるのが恥ずかしいと感じるのは、自分を抑えきれないから・・・？だから自分が怖くて、情けなくて、悔しいのかなと思えました。わずかばかり残った理性で～の部分が印象的でした。人に当たらないように気付かい、でも抑えきれない衝動が見えた気がします。

【考察】①本研究で得られた知見の まとめ

- 第1回目調査の特徴語：
「幻聴」「人」「**怖い**」「感じ」「聞こえる」「周り」「見える」「幻覚」「イメージ」
「見える+ない」
- 第2回目調査の特徴語：
「患者さん」「日常生活」「**暴れる**」「急性期」「慢性期」「理由」「閉じこもる」
「心」「苦しむ」「看護師」
- 第3回目調査の特徴語：
「病気」「人」「症状」「妄想」「周り」「一人」「孤独」「理解+できない」「強い」
「身近」

●今回注目したい結果として特徴語分析において、第1回目調査で「**怖い**」が上位10位以内に登場する。第2回目調査において「**暴れる**」が上位10位以内に登場するにも関わらず、「**怖い**」は出現せず、「急性期」「慢性期」「日常生活」など授業内容が反映していることである。

【考察】②本研究の看護教育実践への示唆と意義

- 服部(2010)は、テキストマイニングの手法により、日本語の自然言語を対象にして従来の手作業の研究とは違った可能性が開けると述べている。
- 臨床現場の看護師の経験を知に変換する知識創造の中山(2004)のモデルに於いて、臨床知と理論知に加え闘病記などのナラティブ教材は知の第3の源泉になる。
- 闘病記における当事者援助機能に着目することにより当事者の自立援助のための実践的意義が大きい。患者のQOLを高めるための基礎的研究となる。
- テキストマイニング手法を闘病記分析に応用する研究としては、自伝研究/伝記分析(西平、1996)の観点からしても、心理学からの方法論的吟味も可能である。
- 対人関係論的看護理論(Peplau, Barker等)やケアリング理論(Mayeroff, 1971). Watson等)に基づく理論と闘病記による物語の往復(「流し込み」西平,1996)による理論的検討と実証的検証の統合も可能となるだろう。
- テキストマイニングにより、学生の感想文やナラティブを対象としつつも効果や分析結果の可視化が可能となり、エビデンスに基づいた質的分析の確保とともに、量的分析による実証的な検証も行うことができたと考える。

【考察】③本研究の看護教育実践への示唆と意義

Frank(1995)は、

「病いの物語の語りは、身体の疾患に端を発してなされるのであるが、それは医学が描きだすことのできない経験に声を与えようとする試みである。」と述べ、

Watson(1989/1999)は、

「看護婦は、病気を抱えて人生で最も傷つきやすい時に人々が自分自身の声や意味を見いだせるよう援助するが、それと同じように看護学や看護職も、今日ケアリングの知識や高度の実践を構成し伝える自身の声をさがしている。」と述べた。

- 精神看護学教育にとってナラティブ教材は、患者にとっても教員にとっても「声」であり、「経験」であり、「知識」である。
- その「声」と「経験」と「知識」であるナラティブ教材の効果として、服部(2010)がテキストマイニングについて暗黙知を形式知に変換するプロセスで重要な役割を果たすことを提案したが、テキストマイニングを用いた今回の結果は、講義の進行に伴い、また教材の活用により、どのように変化したか確認できたことで、暗黙知を形式知に変換する重要なプロセスの可視化を可能にする試みと言えるのではないか。

【考察】④本研究の看護教育実践への示唆と意義

- 学生の目線の変化や学びのプロセスがテキストマイニングによって可視化されることが可能になった。精神看護学の分野に限らず、広く看護教育全般にとって有益なツールである。
- 森川ら(2005)の当事者参加授業の効果は知られているが、間接的な経験であるナラティブ教材による効果には独自のメリットがある。
- 感想文の分析という点では学生視点でのナラティブ教材の受け止めと効果が焦点となり、学生はどのような経験的知識と気づきを得ることができたか明らかになることから方法論的にも新境地を切り開くものとなる。

講義で実際に活用したナラティブ教材

- ・丹羽薫(1998)「日常」:それとも「非日常」? ある中年精神障害者の暮らしぶり 現代のエスプリ367
- ・古川奈都子(2001)「心を病むってどういうこと?:精神病の体験者より」 ぶどう社
- ・梅津布紗子(2004)「やっと精神障害者と認められるようになった私」古川奈都子編「心が病むとき、癒えるとき」 ぶどう社
- ・川村実(2006)「ぼくは統合失調症」 雲母書房
- ・中村ユキ(2008)「わが家の母はビョーキです」 サンマーク出版
- ・NHK教育テレビ「きらっといきる」2008年1月5日放送
「ふたりに届けたい:統合失調症・狭間英行さん美加子さん」

